



既刊

イエスの譬え

エレミアス著・善野碩之助訳

(オンデマンド版)

◆四六判・298頁・本体3000円

イエスの譬え話1

山口里子著

ガリラヤ民衆が聞いたメッセージを探る

◆四六判・198頁・本体2000円

イエスの譬え話2

山口里子著

いのちをかけて語りかけたメッセージは?

◆四六判・245頁・本体2200円

たとえ話研究に金字塔を打ち立てた名著

イエスのたとえ話は、民衆や敵対者に語られ、聴衆に福音への応答を迫ったが、初代教会の寓喩的解釈などによって本来の意図から逸れて伝承された。著者は卓越した語学力と分析力、またパレスチナの文化風土に関する該博な知識に基づいてイエスの本来の意図に迫ろうとする。

本書は『イエスのたとえ話』の学術版から純粹に言語的な資料や注を割愛し、ギリシヤ語やアラム語に精通しない読者にも研究の核心を伝えるべく編まれた普及版の全訳である。底本は最新の改訂が反映された英語普及版第5刷。

イエスのたとえ話の再発見

ヨアヒム・エレミアス著／南條俊二訳

◆四六判・並製・294頁・本体3000円

4月25日発売

【目次より】

- I 解かねばならない難題
- II 原始教会からイエスへの回帰
- III イエスがたとえ話で伝えようとしたメッセージ
- IV 結語

没後50年記念復刊!

カール・バルト著／佐藤敏夫 編訳

バルト自伝

バルトによるバルト入門

◆新書判・並製・139頁・本体1200円



雑誌の求めに応じてバルトが10年ごとに綴った3編の自伝的文章。42歳から72歳までの30年間の生活の変化と神学の展開を明らかにした興味尽きない内容。巻頭には佐藤敏夫氏の優れた長文解説がつく。バルトの生涯と神学への最良の入門書と言えよう。復刊にあたり読みやすく改版。

関連書

カール・バルトの生涯

E・ブツシュ著／小川圭治訳

最晩年の助手が関連資料の豊富な引用と共に20世紀の歴史的文脈に位置づけて描き切ったバルト伝の決定版。

◆A5判・上製・768頁・本体8700円

●催事のお知らせ

『いのちの水』原画展開催!

5月9日～27日、教文館3階ギャラリー・ステラにて

- イベント1 望月麻生牧師による消しゴム版画ワークショップ (材料費実費 1500円)
5/11 & 12 (金/土) 14:30～15:30 楽しい小物づくりに挑戦しよう! (1回完結)
- イベント2 渡邊さゆり牧師&訳者&画家の愉快なトークイベント
5/11 (金) 18:30～19:30 この寓話の意味を考える。
- イベント3 友野富美子牧師による朗読ワークショップ
5/18 (金) 18:30～19:30 メッセージを自分の声で伝えてみよう!

イベントは要申込
教文館キリスト教書部
Tel: 03-3561-8448
Tel: 03-3563-1288

いのちの水



トム・ハーパー 作／中村吉基 訳／望月麻生 絵

最初は誰もが飲めた泉だったのに……。聖なるものを囲い込もうとする宗教の閉鎖性を痛烈に批判した寓話を、達意の訳文と美しい消しゴム版画で贈る。

◆B6判・56頁・本体1500円

ピンク・ダンデライオン著／中野泰治訳

クエーカー入門

社会的な証しや沈黙の礼拝などで知られるクエーカー運動は、いつどのように生まれ、これからどこに向かうのか。明瞭な社会学的記述で、その歴史・運動・思想を明らかにする。

◆四六判・予価2200円

栗林輝夫著／西原廉太・大宮有博編

アメリカ現代神学の航海図

フェミニスト神学、ウーマニスト神学、アジア系アメリカ神学、ポストモダン神学、ポストリベラル神学、修正神学、プロセス神学等々、複雑かつ活発な運動を絶やささないアメリカ現代神学の鮮やかな見取り図。〔栗林輝夫セレクション〕2。

◆A5判・予価5500円

一色哲著

南島キリスト教史入門

(仮題)

琉球王国の最大版図とほぼ重なる「南島」のキリスト教は、日本のキリスト教に従属しない独自の深さと広がりを持つ。なぜ南島には多くの教会が建てられ、現在でも多くの人の信仰を集めているのか。その歴史を丹念な調査と重層的な視点から追究した労作。

◆四六変判・予価2300円

● 3月に出た本と雑誌

新約聖書と神の民 下巻

N・T・ライト著／山口希生訳

原始教会の信仰理解を詳述。教会の生成と新約聖書の成立の様相が明らかとなる。

◆A5判・本体3700円

教会と国家Ⅲ 東西冷戦の時代

バルト・セレクション6 天野有編訳

戦後再建から冷戦の激化にいたる時代に発せられた11編。冷静な「政治の神学」。

◆文庫判・本体1800円

聖書の風景 小磯良平の聖書挿絵

岩井健作著

日本を代表する洋画家の傑作32枚を解説。聖書から挿絵へ、挿絵から聖書へ。

◆A5変・本体2500円

歴史から世界へ 八谷俊久著

20世紀のプロテスタント神学におけるキリスト論の諸問題

◆A5判・本体3400円

福音と世界

◆税込635円

4月号 特集 復活物語をどう読むか

——聖書解釈の視座と方法

寄稿者：廣石望、挽地茂男、李明生、三浦望、安田真由子、松本あずさ／森宣雄、FUNI、角田光代、芦名定道、ブレイディみかこ、望月麻生、内田樹、辻学、佐藤優

●今月の『福音と世界』特集記事の一本では魔女について取り上げられています。ですが、ちょうど先日、大阪の繁華街の一角にある古今東西の呪術・魔法用品を集めた店を尋ねる機会がありました。以前とあるインタビュアーのなかで、この店を開業した「魔女」の存在を教えられ、それからずつと気になっていったのです。運良くその方にもお会いでき、当日に行なわれる儀式をすこし見学させてもらったり、呪術・魔法業界のこぼれ話を聞かせてもらったりして楽しい時間を過ごしました。ちなみに最後は、十戒の教えが各方面にひとつずつ書かれた十戒サイコロを買って帰りました。

●この原稿を書いている4月4日は、ちょうど50年前に、キング牧師がテネシー州メンフィスで凶弾に倒れた日です。キング研究に生涯を捧げられた故梶原寿先生に引率されて家族ぐるみで「キング・ツアー」に参加し、暗殺現場を訪ねた時の思い出が甦ってきます。キングは黒人公民権運動を非暴力で闘った指導者としてノーベル平和賞を受賞しました。しかし彼の預言者的な眼差しはすでに黒人への差別だけでなく、激化するベトナム戦争へ、さらにそれを生み出すアメリカ社会の構造悪へと向けられていました。亡くなる前年の演説「ベトナムを越えて」では、人種差別、物質主義、軍国主義の「巨悪の三つ子」を指弾しています。今日的にヘイトと格差と戦争と言ひ換えてもよいかもありません。牧師はその克服のために「価値観の真の革命」を訴えました。それは今なお巨大な課題として私たちの前にあります。(小林)

●呪術・魔法というと、不審に思う方もいるかもしれませんが、私も最初は、怖いもの見たさなところがありました。ですが、日本ではとりわけ東日本大震災以降盛り上がりつつあるという呪術・魔法のムーブメントについての説明を聞くにつれ、宗教や霊性への関心が再び高まりつつあるいわゆるポスト世俗化の時代にあつて、これもまた人びとが自らの心身にはめられた枷を外し、霊的なものに接近していく試みの

ひとつなのかもしれないと思われました。ではキリスト教は、そうした人びとの求めに応えられているでしょうか。いずれにせよ、現代の魔女、ますます気になる存在です。(堀)

福音と世界

2018年
6

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8460円

特集・マルクス主義とキリスト教

——マルクス生誕200年に考える

マルクス、エンゲルスの宗教観について

不破哲二

エンゲルスとキリスト教

柄谷行人

神学と社会主義

カール・バルトの場合
武田武長

『キヤリバンと魔女』の問い
マルクス主義

フレイニズムを再考する
小田原琳

大学でイスラームを教える『資本論』に
四戸潤弥

行き着いた
デヴィッド・ライアン

キリスト教的な革命家たち?——マルクス
主義の革命観へのキリスト教的評価をめぐる

デヴィッド・ライアン

オオカミ復活と農村伝道
星野正興

〔連載より〕

◆野に咲く民衆の神学 2……………森 宣雄

◆地のいと低きところにホサナ 5……………ブレイディみかこ

◆福音の地下水脈 7……………植本一子

◆現代神学の冒険 20……………芦名定道

◆聖書とわたし 26……………福岡伸一

◆新約釈義 第一テモテ書 27……………辻 学

◆レヴィナスの時間論 38……………内田 樹